

# 活動成果報告書

令和元年度（第23回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

ゲームを通してはぐくむ居場所づくりと依存症予防



グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

さいたまeスポーツ協会

代表者：古谷 真樹子

勤務先：さいたま市浦和区役所

所 属：健康福祉部 保健センター

所在地：〒330-0061

埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-18

TEL：048-824-3971

FAX：048-825-7405



## ◇活動方針

活動方針は以下の2つである

1. 「得意が認められる居場所づくりを行い、孤立化予防と自己肯定感の向上を図る」
2. 「依存症に関する知識の普及啓発を行いゲーム依存の予防と早期発見のきっかけとなる」

それぞれの活動方針について

1. 得意が認められる居場所づくりを行い、孤立化予防と自己肯定感の向上を図る

核家族化や生活の多様化に伴い、ご近所づきあいや親戚関係といった地域のコミュニティは激減した。特にさいたま市は転出入が多く孤立化は課題である。

草野球チームや部活など好きなことをするために集まるコミュニティは既に存在している。その一つにゲームが好きな人が集まるコミュニティがあってもよい。ゲームの良いところは年齢・性別・障害さえも関係なく一緒に遊ぶことができるという点である。また、コミュニケーションが苦手な人でもゲームという媒介があることで他者とコミュニケーションを図るハードルが下がる。好きなことをしながら他者と関わる、得意なことを認められる場があるということは現代社会において孤立化予防のため非常に重要な活動であると考えます。

私が開催したイベントの中には発達障害を抱えているお子さんと一緒にゲームのイベントに参加された保護者の方もいた。その方からイベント後、お子さんがゲームを通して同年齢のお子さんとたちとコミュニケーションをとっている様子がとても嬉しかったのでまた参加したい、という声もいただいた。

# 活動成果報告書

## 2. 依存症に関する知識の普及啓発を行いゲーム依存の予防と早期発見のきっかけとなる

今年6月、WHO が正式にゲーム障害を疾病として認定したことが記憶に新しい。その一方で e スポーツ団体が各地に設立され、今年の9月～10月に開催される茨城国体では e スポーツも競技種目として定められている。(e スポーツとは「electronic sports」の略称であり、広義には電子機器を用いた競技と解釈されることが多い。)

依存症というと一般ではまだまだ『意志の弱さ』という認識をされがちであるが、実際は『生育歴』や『他者との信頼関係の構築の困難さ』、『ストレス』など外的な要因も非常に大きい。依存症に関する正しい認識を周知していくことで、依存症を本人だけの課題ではなく社会全体の課題であることを伝えていく。そこで、イベント内で依存症の知識に関するリーフレットの配布や依存に関する講話を行う。ゲームを通して他者とのかかわりを楽しみつつ、依存症に関する正しい知識を得てもらうことで楽しく学んで依存症予防の視点をもってもらえるイベントを目指している。

ゲームはインターネットとの関係も深く、離れた場所においてもインターネット上でまるで一緒にいるかのように遊ぶことができる。さらに、来年度からプログラミングが義務教育に加わることで決まっており、現代においてゲームなどの電子媒体は生活に必須であると同時に正しい知識を得て健康的に活用するスキルと知識を得る必要がある。

### ◇活動内容とその成果

コミュニティ運営(会場確保、機材搬入)、大会運営、運営協力、依存症に関する知識の普及啓発(講話、チラシの配架)

### 活動実績

2019年1月 「ARMS」対戦・交流会 開催

同年3月 埼玉ゲームシティ に出展

同年5月 ARCHE e-Battle に出展

同年6月 キラキラスターナイト ハイスコア大会

同年7月 「RIKI の e スポーツ教室」に講師として協力。小学生とその保護者に向け依存症とゲームとの付き合い方や、発達障害と自己肯定感の講話を行った。

同年12月 「あいぱれっと e スポーツ大会」をあいぱれっと(さいたま市子ども家庭総合センター)と共催

2020年1月 さいたま市100人カイギに出席。依存症とゲーム依存(障害)の予防について講話

## 活動成果報告書

### ◇今後の計画

各地で設立されている e スポーツ団体の中でも「得意を發揮し認められる場を作りたい」「自己肯定感の向上」、「依存症予防」といった視点でゲームにかかわる団体は現時点で本協会のみである。また、イベントの中で私が保健師だと知った方から健康や育児、発達障害に関する相談を受ける機会もあった。保健師という職業を知ってもらえる機会にもなっていると強く感じる。

さいたま市を含む県内各所において

- ・ ゲームイベント開催（随時）
- ・ 『eたま』の定期開催（施設を借りて参加者が気軽に立ち寄れる居場所の提供を行う）
- ・ 依存症への理解と予防、ゲームとの付き合い方の知識の普及啓発のため講話や「eたま」内でリーフレットの配架を行う。
- ・ 子育て支援団体との共同イベント企画・運営（2020年3月予定）  
親子で参加でき、「遊べる・学べる」イベントを企画している。